



がっこう 学校だより

がっこう
9月号



**Challenge
Dream
Interaction**

れいわがんねん がつ か
令和元年8月27日
よこはましりつかみいだいしょうがっこう
横浜市立上飯田小学校

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamiida/>



きょうせい まな トキとの共生から学ぶこと

こうちょう よこやまよしあき
校長 横山美明

なつやす お こ たち げんき こえ がっこう もど やく にちかん なつやす なか わたし
夏休みが終わり、子ども達の元気な声が学校に戻ってきました。約40日間の夏休みの中で、私
しゅくだい だ なつ けいけん つ きょう がっこうせいかつ なか
宿題に出した『この夏しかできない経験を積む』ことはできたでしょうか。今日からの学校生活の中
で、子ども達にも聞いていきたいと思えます。

わたし なつ さどしま やせい み がくめい
さて、私はこの夏、佐渡島で野生のトキを見ることができました。トキは学名を Nipponia nippon
(ニッポニア・ニッポン) といふ え どじだい にほんぜんこく ぶんぶ いっぱんてき とり
(ニッポニア・ニッポン) といふ、古く江戸時代には日本全国に分布している一般的な鳥でした。そ
のため朱鷺色 (トキイロ) という色の名前にもなり、着物の染め物の色として当時の若い女性に好ま
れていました。しかし、明治の頃からその肉や羽が重宝がられ、狩猟等によりその個体数は激減
し、明治の終わりには保護鳥となり、昭和初期には絶滅したと思われていました。ところが1940年
に新潟県で生存が確認され、1952年には国の特別天然記念物に指定されました。その時の個体数は
24羽でした。その後、野生のトキを保護し人工飼育が始まりましたが成功せず、とうとう2003年に
日本産トキは絶滅してしまいました。しかし、1999年に中国から贈呈されたトキの人工繁殖に成
功し、2008年には、佐渡の大空へ10羽のトキを放鳥することができました。放鳥を続けた結果、
げんざい やせいか そうこたいすう わ こ やせいか う ばいじょう
現在では野生下の総個体数は400羽を超え、野生下で生まれたものも200羽以上になりました。これ
だけの個体数を増やすために、島全体でトキと共に暮らすための環境作りは何年もかけて取り組ん
だそうです。トキの食べ物を増やすために農薬や化学肥料をできるだけ減らしたり、冬場でも餌が捕
れるように冬も田んぼに水を張ったり、餌となる生き物が住むためのビオトープを作ったりと様々
な環境作りを行ってきました。そうしたたゆまぬ努力がトキと人とが共生できる環境を作り出した
のです。またその副産物として島の自然全体が再生されたということでした。

いま よ なか あやま た おお かいようどうぶつ いのち お
今、世の中では、プラスチックごみを誤って食べてしまい多くの海洋動物が命を落としているた
め、飲食店ではストローをはじめとするプラスチック製品を減らそうという動きが出てきています。
がっこう ちいき はな みどり ふ かつどう さんか とりくみ おこな
学校では、地域の花や緑を増やす活動に参加したり、クリーンデーの取組を行ったりしていま
す。環境作りは一朝一夕にできるものではありませんが、一人ひとりが今できることに取り組んで
いくことが大切であると考えています。そういった活動を通して地域の環境を大切にし、地域を愛
する子どもを一人でも多く育てていきたいと思えます。